



北海道医歌人会詠草

オオマツヨイグサ

札幌 浜島 泉

黄なる花多しこの時季遠目にも色あひ薄きオオマツヨイグサ
ノブドウとヤマブドウのつる混生す若だてる葉と蕾が豊か
ジャガイモは芽吹きアブラナ花開く季節到るも休耕の畑
曲がらざるべき交差にて左折せる回送バスを見送りし午後
窓開けて空気動かす先週は夏日と言ふも強風怖ぢつ

展翅標本

釧路 児玉 昌彦

がん病みて余命の見えし医の友に重き心で文したためぬ
戦中と戦後を生きし我が世代いかなる変事も受けとむ用意は
学生の頃より付き合ひ五十年・人生走馬灯・戦友の死に
夫逝きて息子らの前で心なし小さくなりし夫人の姿
蝶の翅に魅せられし君の記念にと通夜の日購う展翅標本

共感

旭川 稻積 文子

喜んで菜園作業を手伝う人多く楽しく頒つキウリ・ナス・トマト
共感する友よりの便り嬉しかり卒後の長き空間を経て
ジャジャ馬と椰揄して喜ぶ人在りて短命にこの世を去りてしまえり
逆らいて心痛むは誰ならん墓参の跡の新らしき花
心弱き人間に育てし母吾れが頼らんとするは子も同じ場所

夏

江別 三宅 浩次

幼子がドラキュラみたいと笑われて桑の実を摘む真夏日の空
薔薇よ薔薇けげばしさと可愛さのアンビヴァレンス汝は小悪魔
波際にAKB似の子ら燥ぐその声聞くは安らぎの時
娘らは薄着のまま陽の中を長い素足で氣ままに歩く
北国の夏は足早昨日まであの暑かった儂い記憶

大通公園

札幌 山口 康徳

トンボ採り今日はいずこぞ『加賀の千代』そにいざなはれ秋色の濃し
混沌と混乱つづく日の本を救ふ方途はただ三つ智き頭脳と強き意志・ヒューマニズム
ルピナスは色淡けれど形よく広き大通公園に燦と輝く
南国に未曾有といはる大豪雨狼狽せずに対処なすべし
八絃の学園に咲きたる杜若菖蒲と共に妍きそふがに

聖書と念佛

札幌 古屋 統

聖書置くビジネスホテルに泊りたり般若心経置くは聞かざる
念佛の隠居の齡佛壇をわれ持たざれば聖書でも讀むか
旧約を解くは難し慈悲を説く坊主の経と相通うもの
重火器を持たざるむかし地を求め侵掠殺戮神の名のもと
經典の文字は讀めねどひたすらに唱えて浮かばれる念佛やよき

「都ぞ弥生」百年記念

美唄 吉村 誠治

清き國を希ひ百年の「都ぞ弥生」記念植樹は陳羽織着て
歎ばし卒業六十年この年に「都ぞ弥生」百年を迎ふ
声涸らし「都ぞ弥生」五番迄歌ひ終へたり甦へる日々
移されし恵迪寮の入口の新名札掛けに我が名を掲ぐ
若き日の三年過ごしし恵迪の名札見上げる我八十五歳